

令和4年播種 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
令和4年 10月20日	平年並	播種期、出芽期はともに平年より1日遅かった。葉数、草丈、莖数はいずれも平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
令和5年 5月20日	平年並	根雪始は平年より9日遅く、根雪終は平年より1日遅いため、積雪期間は8日短かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬後の生育状況は良好であった。起生期は平年より3日遅く、起生期の莖数は平年並であった。4月以降、気温は高く、降水量は平年並、日照時間はやや少なくな推移した。平年と比べて、草丈はやや長く、莖数は少ない。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	平年並	5月上旬から中旬の気温がやや高く推移したことから、出穂期は平年より2日早かった。草丈および莖数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	平年並	6月中旬から7月上旬までの気温がかなり高く推移したことから、成熟期は平年より11日早かった。平年に比べて稈長、穂長は同程度、穂数はやや少なかった。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
8月20日	良	登熟期間の合計の日照時間が、平年は235時間であるのに対して本年は266時間と長かった。そのため、容積重および千粒重は平年よりやや重く、2.2mm篩上率は高かった。子実重は平年比120%と多収であった。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種期、出芽期はともに平年より1日遅かった。根雪始は平年より9日遅く、根雪終は平年より1日遅いため、積雪期間は8日短かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬後の生育状況は良好であった。起生期は平年より3日遅く、起生期の莖数は平年並であった。5月中旬までの気温がやや高く推移したことから、出穂期は平年より2日早かった。6月中旬から7月上旬までの気温がかなり高く推移したことから、成熟期は平年より11日早かった。平年に比べて稈長、穂長は同程度、穂数はやや少なかった。登熟期間は9日短かったが、合計の日照時間が平年は235時間であるのに対して本年は266時間と長かった。そのため、容積重および千粒重は平年よりやや重く、2.2mm篩上率は高かった。子実重は平年比120%と多収であった。検査等級は1等であった。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期(月日)		9.22	9.21	1
出芽期(月日)		9.29	9.28	1
起生期(月日)		4.3	3.31	3
出穂期(月日)		5.30	6.1	△ 2
成熟期(月日)		7.12	7.23	△ 11
葉数(枚)	10月20日	3.4	3.7	△ 0.3
草丈 (cm)	10月20日	18.8	19.9	△ 1.1
	5月20日	54.4	49.9	4.5
	6月20日	93.7	92.0	1.7
莖数 (本/m <sup>2</sup> )	10月20日	507	514	△ 7
	11月15日	1,146	1,070	76
	起生期	1,632	1,603	29
	5月20日	941	1,523	△ 582
成熟期	6月20日	719	758	△ 39
	稈長(cm)	81.3	82.7	△ 1.4
	穂長(cm)	8.4	8.7	△ 0.3
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	712	750	△ 38
子実重(kg/10a)		884	735	149
同上対平年比(%)		120	100	20
容積重(g/L)		852	845	7
2.2mm篩上率(%)		98.4	93.3	5.1
千粒重(g)		41.9	38.9	3.0
検査等級		1	1	0

備考 1) 平年値は、前7か年中、令和3年収穫(豊作)、平成28年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。  
2) △は平年より早、少、短を表す。

耕種概要

一区面積 (m <sup>2</sup> )	区制	前作物	畦幅 (cm)	播種日 (月日)	播種量 (粒/m <sup>2</sup> )
9.6	4	緑肥 トウモロコシ	30	9.22	255

肥料名	施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	
S502	80	4.0	16.0	9.6	4.0	基肥
硫安	38	8.0				4.21
硫安	19	4.0				5.26